

いすみ市立東小学校

1 学校の紹介

(1) 学校の概要

本校は、房総半島東部、いすみ市の中央に位置する自然豊かな、学校周辺には田園が広がる農村地帯である。児童数87名、学級数(特別支援1学級含)7、単学級の小規模校である。三世代同居の家庭が多く、温かい家庭、地域環境の中で育った児童は素直で優しい。学校教育に対する関心も高く、家庭や地域の協力体制も整っている。

(2) 学校教育目標

「自信をもって行動できる子の育成」

めざす
児童像

- ・あ 明るく たくましい子
- ・ず すすんでやりぬく子
- ・ま 学び合い高め合う子

(3) 読書活動に関する目標

- ①読書活動を推進し、豊かな人間性を培う。
- ②学校図書館のさまざまな資料にふれ、学校図書館の機能を理解し、利用できるようにする。
- ③多様な資料から目的に応じた情報を選び、課題解決を図れるような情報活用能力を育成する。



2 自校の図書館の現状

(1) 図書館整備状況

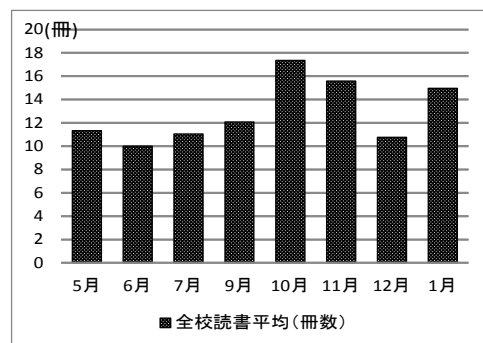
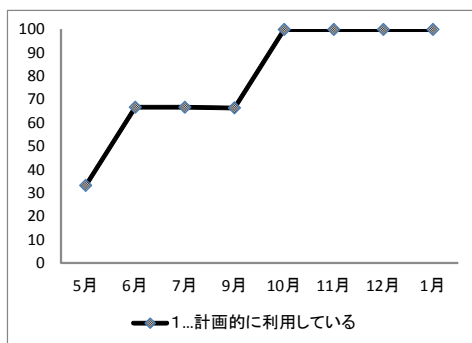
・学校図書館標準の定める冊数	5,560冊
・26年度末の学校図書館の蔵書冊数	8,500冊
・学校図書館図書標準の達成状況	153%

古い本が多かったため本年度積極的な廃棄作業を8月の職員作業で行う。

27年12月現在は、蔵書冊数7,313冊、達成状況は131%。

(2) 図書館利用状況

- ①学校図書館活用に関する教師の意識
- ②27年度図書館貸出一人当たり月別平均冊数



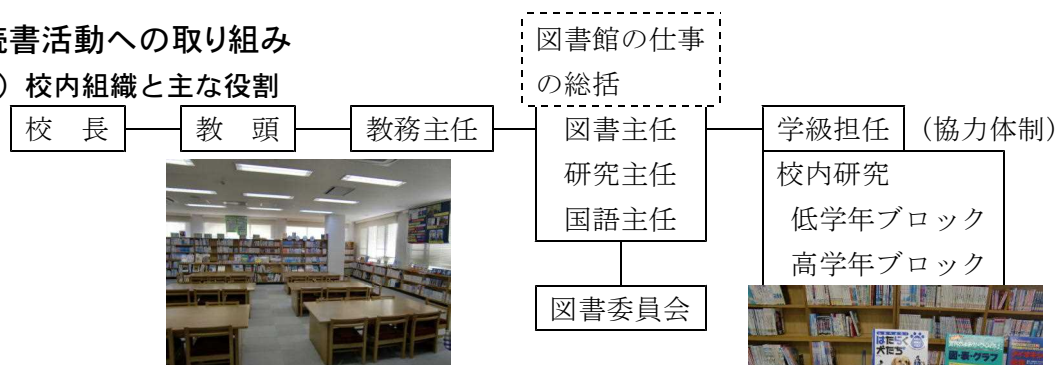
図書館が校舎から離れているということもあり、年度初めの利用数や貸出冊数はかなり少ないという状況であった。その分、学級文庫には学年に応じた本や学習に役立つ本が多く置かれており学習や朝読書に活用している。

図書館活用についての担任の意識の向上がみられた。それに伴い、図書館利用の

児童への呼びかけも意識的に行い、利用する児童が多くなっていることが分かる。10月11月は読書月間として読書を推奨してきたため、利用する児童が多くなっている。

3 読書活動への取り組み

(1) 校内組織と主な役割



(2) 子どもや教員に対する支援

① 図書館運営に関すること

○ 図書館の整備・管理

- ・今年度、古い本の廃棄を夏季休業中の職員作業で 1,000 冊以上行った。まだ十分ではないので、来年度以降も引き続き行っていく予定である。
- ・児童が本を探し易くするため、本の配置換えや、低学年にもわかり易いように書架の NDC 表示を工夫した。
- ・新刊紹介や各学年ごとの調べ学習、「平和教育」のようなテーマを設定し、書籍を配置した。
- ・本の面出しや掲示物の工夫を行い、本に親しみ易く手に取り易いようにした。

○ 図書館利用のガイダンス

- ・図書館利用についてのガイダンス(NDC とその配置・利用の仕方・調べ方等)を全校集会で行った。また、各学年については年間指導計画のもと、学年に応じた利用の仕方を指導している。

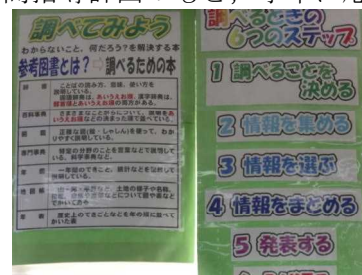
○ 年間指導計画に基づいた学校図書館活用

- ・各学年週 1 時間図書館活用の時間を設置し、計画的な活用を進めている。

② 読書推進活動に関すること

○ 定期的に行われている取り組み

- ・朝の読書時間(週 1～2 回)を設定し、1 回につき 20 分間の読書を行う。集中して長い時間本を読めるように、選書は前日行っておき登校後支度を終えた児童から速やかに行っている。
- ・ボランティア(1～3 年)、職員オープン(4～6 年)による読み聞かせを月に 2 回行う。読んでもらった本は、「読書の木」コーナーに掲示する。
- ・学年に応じたためあてを設定し、読書を行う環境作りをする。
- ・読書推進を促す掲示物
- ・おすすめ本紹介コーナー設置





学年	読書のめあて
1	○100冊以上読もう ○すすんで取り組もう
2	○週に3冊以上本を読もう ○先生からの「今月のおすすめの本」を必ず読もう
3	○週1回、図書館で貸し借りをしよう ○先生からの「おすすめの本」を進んで読もう
4	○週1回、図書館で貸し借りをしよう ○朝読にすすんで取り組もう
5	○個人のめあて「○○ページを読もう」の設定
6	○毎日50ページ以上読もう
なかよし	○いろいろなお話を読もう



- 【図書館】・12月「クリスマス」の本を読もう 等
 ・○○先生・図書委員○○よりおすすめの本
 【各学年】・読書コーナー等、各学年に応じた取り組み
 ○イベント的に行われている取り組み
- ・夏休みの開館・貸し出し
 - ・家庭学習強化週間での家読のすすめ
 - ・読書祭り 秋の読書月間 10～11月
 - ・読書量調査 読書量紹介・表彰
 - ・読書感想文発表

(3) 学習等に関する支援

①教科指導に関すること

ア 校内研修 国語科学習での読書活動を取り入れた指導の工夫

実践(1)第1学年 おんどくげきをしよう くじらぐも

○本単元で行う言語活動

- ・教材「くじらぐも」より、登場人物の行動を読み取り、その読みを生かして音読劇を行う。「保育所のみんなにくじらぐもの音読劇を見せよう」
- ・「音読」を言語活動として位置付け、読みや表現を深めていく。

○身につけさせたい力(読むこと)

- ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力
- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する力

○指導の実際(読書とのかかわり)

入学当初、子どもたちの読書への関心は個人差が大きく、平仮名を読めない児童は、自分で本を読むことができなかった。そこで、教師が読み聞かせを多く行うことで本の面白さを味わわせ、本への関心を高めていくこととした。ま

た、児童に読ませたい本の「おすすめコーナー」を設けて本の紹介を行うようにしてきた。2学期になり、平仮名の読み書きが定着した頃になると、読書への関心が低かった児童が自分から本を手取るようになり、読書する姿が見られた。

10月に授業実践した「くじらぐも」は、自分たちと同じ1年生が大空を舞台としてダイナミックに活躍する内容であり、文章全体のリズムも心地よいことから、楽しく音読することに適した教材である。想像を膨らませながらみんなで声に出して読むことをたっぷり行うことで、物語の世界を楽しむとともに読書への関心が高まることにつながった。

「くじらぐも」の学習活動のゴールとして、保育所での発表会を行った。目的意識や相手意識を持って学習を進めたことで、登場人物になりきって物語の世界を楽しみ、自信をもって発表することができた。

また、「くじらぐも」の作者中川李枝子さんの本を紹介し並行読書することで、ほのぼのとした作品の世界を楽しみ、読書への関心を高めることができた。

実践(2)第2学年 ペープサート音読劇をしよう 「スイミー」

○本単元で行う言語活動

- ・教材「スイミー」より、登場人物の行動を読み取り、その読みを生かしたペープサート音読劇を行う。「ペープサート音読劇を1年生に見せてあげよう」
- ・感動を表現、記録、交流する言語活動。

○身につけさせたい力(読むこと・書くこと)

- ・本や文章を読んで、登場人物や場面の様子などについて、想像を広げながら読みとる力
- ・文章中の大事な言葉をもとに、感想やナレーションを書く力

○指導の実際(読書とのかかわり)

本学級は読書好きな児童が多いが、読む力に大きな差があり、それは書く活動を始めた全ての言語活動に影響を与えている。

そこで、1年生に「ペープサート音読劇」を見せてあげよう、というめあてをもつことで、全員が意欲的に主人公の言動や場面の様子等について想像を広げながら読むであろうと考えた。さらに、ペープサートや背景画を自分たちで描いたり、ペープサートを動かしながら劇を演じたりする活動を加えることで、読み取りはさらに深まり、自分たちが選んだ場面のナレーションや登場人物の会話を楽しく書き加えたりする活動につなげていくこととした。

単元の見通しをもたせるために、導入時には教師が作ったペープサート劇「コーネリアス」を読み聞かせした。子ども達の意欲は高まり、ゴールがイメージできたことで、読む活動を意欲的に行っていった。子どもたちは教材を主人公の気持ちに寄り添いながら読み取り、感想を書き、スイミーの心情について話し合ったり、登場人物やその場面の様子に合わせて音読で表現したりして読みを深めていった。発展学習では、音読劇の台本に自分の台詞やナレーションを書き加え、リーダーを中心にグループの音読劇の台本を作っていた。音読だけでなく場面に合わせてペープサートの動かし方などにも熱が入り、1年生の

前で自信を持って発表することができた。

また、単元導入で「レオ＝レオニ」の作品を紹介した。自分らしく生きることをテーマとし、繊細で柔らかな色彩で綴られた心温まる絵本を並行読書し、同作者の作品に大いに浸らせることはとても有効であった。子どもたちは、全ての作品を意欲的に読み、学習後にはレオ＝レオニより、「私のおすすめこの1冊」の本の紹介も楽しく行うことができた。

実践(3)第3学年 れいをあげてせつめいしよう

食べ物のみみつ教えます ～食べ物事てんをつくろう～

○本単元で行う言語活動

- ・教材「すがたをかえる大豆」「いろいろなすがたになる米」を読み取り、その読みを生かし、「すがたをかえる〇〇」という説明文を書く活動を行う。

○身につけさせたい力(書くこと)

- ・目的に適した事例を複数挙げながら、読み手にとって分かり易く説明する文章を書く力

○指導の実際(読書とのかかわり)

本学級は、読書好きな児童が多いが、読む量に個人差があり、本への関心にはばらつきが見られる。

そこで、「3年生の食べ物事てん」をつくり、2年生に発表するというめあてをもつことで、意欲的に食に関する本を読み調べることができると考えた。さらに、単元の見通しをもたせるために、導入時には教師が作った「食べ物事てん」のモデルを見せた。ゴールを具体的にイメージし、見通しを持って事典作りに意欲的に取り組むことができた。

また、事前に公立図書館や学校図書館から食に関する資料をたくさん借り、学習スタートと同時に食べ物に関する本を多読したため、食に関する知識も広がり、それを事典作りに生かしながら興味深く言語活動を行うことができた。

実践(4)第4学年 新美南吉の作品を読み、紹介し合おう

○本単元で行う言語活動

- ・教材「ごんぎつね」から、登場人物の性格や気持ちの変化を読み取る。
- ・新美南吉の他の作品を読み比べ、おすすめの作品を紹介し合う。

○身につけさせたい力(読むこと・書くこと)

- ・登場人物の性格や気持ちの変化を想像し、情景を表す文や語句に着目しながら読みとる力
- ・同じ作者の作品を読み比べ、共通点や相違点について話し合い、作品を紹介する文章を書く力

○指導の実際(読書とのかかわり)

「新美南吉の作品を読み、紹介し合おう」を学習のめあてに設定することで、児童が目的意識・相手意識をもって活動を進めることができるであろうと考えた。学習の見通しをもたせるために、導入の際、教師のモデルを提示した。単元のゴールをはっきりイメージすることができ、読み取りの活動に対して意欲的に取り組むことができた。

学校図書館に新美南吉の作品を探しに行くと、「こんなにあったんだ」とどの児童も驚いた様子であった。図書を教室に持ち帰り、新美南吉のコーナーを作り、朝の読書の時間や休み時間にいつでも読めるようにした。また、教師のおすすめの作品を読み聞かせすると、進んで読もうとする姿がみられた。読みたい図書がすぐ手に取れる学級文庫にあることで、児童はお気に入りの作品を見つけやすかったようであった。並行読書を通して多くの作品に親しみ、児童はより多様な感想をもつことができたと考える。

実践(5)第5学年 生き方発表会をしよう
伝記を読んで、自分の生き方について考えよう

○本単元で行う言語活動

・伝記を読んで「生き方発表会」を行う。

○身につけさせたい力（読むこと）

- ・人物像を捉えて読み、自分の考えを広げたり深めたりする力
- ・伝記の特徴を捉えて読む力

○指導の実際

伝記を読んで、登場人物のすばらしさやその人物から学びたいこと等、これからの自分の生き方について考えたことをまとめ、「生き方発表会」をする活動の見通しをもたせて学習活動をすすめた。

そこで、指導計画を四次構成にし、教材を通して伝記の特徴である人物の功績やその意義、人物像の読み取り方を生かし、発展学習として自分が選んだ伝記の登場人物の読み取りを深めていった。そして、意図的なグループ編成での交流活動を毎時間取り入れることにより、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながった。

また、導入の際、たくさんの偉人の生き方にふれることができるように関連図書のコーナーを設けた。読書後に伝記感想カードを活用し、偉人と自分との共通点や相違点等を記入するなど読む視点を明確にしながら取り寄せた。そのため、自分と違う伝記を選んだ友達とも互いにアドバイス・質問・共感等をするなど、交流活動の深まりが見られた。

実践(6)第6学年 自分が選んだ鳥獣戯画の場面を紹介しよう

○本単元で行う言語活動

・『鳥獣戯画』を読む」という教材文から高畑勲さんの表現や構成の工夫を読み取り、それをもとに自分が選んだ鳥獣戯画の場面を5年生に紹介するために解説文を書く。

・友達が書いた解説文を読み、考えを交流する。

○身につけさせたい力（読むこと・書くこと）

- ・自分のものの見方で絵を読む力
- ・読み取ったことを評価を表す言葉を用いて書き表す力

○指導の実際（読書とのかかわり）

本学級は文の要旨をとらえること、文章の表現や構成の工夫を読み取ることが苦手である児童が多い。そこで、絵を読み取る方法を筆者から学んだり、

表現や構成の工夫を交流していく場を設けた。さらに、「解説文を作ること」を単元を貫いた言語活動として位置付け、「自分が選んだ鳥獣戯画の場面を解説文にして5年生に紹介しよう」という目的意識と相手意識を児童らにもたせることで意欲的に取り組むであろうと考えた。また、見通しをもたせるために、導入時に教師が作った鳥獣戯画の解説文を見せた。

書くことを意識した読み取りを習得する段階では、「筆者はどんな見方をしているのだろうか」「筆者はどんな言葉を使って、説明したり評価したりしているのだろうか」という読みの視点を与えた。筆者の評価が表れている表現を見つけながら読むことで、自分が解説文を書くときの表現の工夫として生かされていくことができた。

読みを活用する段階では、教材文で示されている部分以外の場面を児童らに選択させ、これまでに学習したことを生かして、その場面の絵を読み取らせ解説文を書かせた。その後、グループで交流させ、お互いの解説文の優れた点を付箋紙に書かせた。その際、鳥獣戯画を解説している本を何種類か紹介し、並行読書を行うこととした。筆者の「書き出し」や「文末表現」、「評価する表現」等といった表現の工夫を参考にすることで自分の解説文に膨らみを持たせることができた。その後、友達が書いた解説文の優れた点である、「書き出し」や「文末表現」等を付箋紙に書いてお互いに交流することで、共通点や相違点に気づかせることができ、表現の工夫が高まったと考える。

イ 調べ学習 他教科での読書活動を取り入れた指導の工夫

実践(1)第2学年 ふれあいフェスティバルで「おもちゃ広場」をひらこう
生活科(国語科との合科指導)

○本単元の目標

- ・ふれあいフェスティバルにむけて、「おもちゃ広場」を開くことをめあてに興味をもって取り組める。
- ・作りたいおもちゃを決め、材料や道具について調べ、準備したり作ったりすることができる。

※参考にした本 やさしいこうさく 小峰書店

リサイクル工作であそぼう 手づくりおもちゃ 200 ポプラ社 他

- ・身の回りの材料を使って動くおもちゃを作り、楽しく遊んだり遊び方を伝えたりすることができる。

○指導の実際

毎年恒例の行事「ふれあいフェスティバル」で、「おもちゃ広場」を行うことを知り、自分が作りたいおもちゃについて考える。その際、おもちゃ作りに関する20冊余りの図書を参考に読み、情報を取捨選択する。自分が作るための材料や道具を準備しておもちゃ作りを行い、楽しく遊んだり遊び方を教えたりする。国語学習では、おもちゃの説明書を書き、おもちゃ広場で作り方を説明をする。最後におもちゃの本を作ることが主な言語活動となる。

「ふれあいフェスティバル」当日は、地域の方や保護者、他学年との交流を

図りながらおもちゃ広場を開催する。

実践(2)第4学年 ゲンジボタルについて調べてまとめ、
「ゲンジボタル発表会」を開こう 総合的な学習

○本単元のめあて

- ・東地区で守られ、大切にされているゲンジボタルについて、様々な資料をもとに調べたものをまとめ、3年生に紹介することができる。

※参考にした本「キンダーブック ほたる」 フレーベル館
「ドキドキワクワク生き物飼育教室 かえるよ！ホタル」 リブリオ出版 他

○指導の実際

総合的な学習の時間において、東地域の自然の何について詳しく調べたいか調査すると、半数以上が川について興味を示していることが分かった。そこで、学習のテーマを「東地域の川について調べよう」とした。

実際に学区にある川に生き物採集に行く前には、どのような生き物がいればきれいな川と言えるのか、図書を活用して調べ学習を行った。現地の川沿いでは、「山田ゲンジボタルの里」というマップを発見し、東地域で毎年開かれている「ホタル祭り」を多くの児童が連想した。なぜ東でゲンジボタルが大切にされているのか、そもそもゲンジボタルとはどういった生き物なのかと疑問を抱き始めた。その後、調べ学習のテーマは「東地域で有名なゲンジボタルについて調べよう」と進展し、学校図書館にある図鑑を中心とした図書を有効な資料として活用していった。

最後に、調べたことを新聞やペープサート、紙芝居などいくつかの方法でまとめ、次年度勉強する3年生に発表した。

実践(3)第6学年 戦時中の様子を発表しよう 社会科(国語科との合科指導)

○本単元のめあて

- ・戦時中の国民生活、東京大空襲、原爆投下、沖縄戦などといった歴史的出来事について図書を使って調べ、まとめることができる。(学校図書館利用)

※参考にした本 「平和学習に役立つ戦跡ガイド」 汐文社
「ひとり調べができる時代別日本の歴史」 学習研究社 他

○指導の実際

はじめに、社会科において「戦時中の様子を発表しよう」という目的意識をもたせ、戦時中の人々の生活や戦争の起こり方などについて調べる。単元「長く続いた戦争と人々の暮らし」では、原爆ドームが世界遺産となった理由や東京大空襲の被害、終戦となった経緯などを学習する。戦争に関する様々な図書の中から、自分が求めている情報を見つけ出し、模造紙にまとめていく。関連して、国語科では、「未来がよりよくあるために」という単元の教材文である「平和のとりでを築く」でよりよい未来のための行動を読み取る。その後、自分にとっての平和とはどういうものなのかを考え、そのためにはどうしなければならないかを説得力のある意見文にするために図書を活用する。

本実践は二点の言語活動となる。一点目は「戦時中の様子を模造紙にまとめ発表する」、二点目は「未来をよりよくするために何をするかを意見文として

書く」ことである。

実践(4)特別支援学級 いろいろなお話を読もう

生活単元学習

○本単元のめあて

- ・いろいろな本に興味をもって読むことができる。

※参考にした本

「あいうえおのえほん」金の星社 「あおぞら文庫」日本標準

○指導の実際

平仮名や片仮名の文字や長文を読むことが苦手な児童がいるため、児童の実態に合った内容の本を紹介した。また、ビジョントレーニングなども行っている。そのため、目で文字を追うことに慣れ、文章を自分から進んで読むようになってきた。

②図書委員の活動

○ねらい

- ・学校図書館の運営に関わり、その仕事を協力分担して行う体験を通して、みんなのために自主的に役立つとする実践意欲を身につける。
- ・図書の紹介や貸し出し、管理等の活動を通して、意欲的に活動する実践力を身につける。



○活動の実際 図書委員(6年2名 5年1名 4年1名 計4名)

【常時活動】

- ・貸し出し及び返却の補助…月・水・金の昼休み
- ・全校児童の貸し出し及び返却の手続きや補助
- ・全校児童への貸し出しの放送や呼びかけ
- ・おすすめ本の紹介や読書クイズ



【委員会活動時】

- ・図書資料の整理・読書環境作り
- ・新刊本・推奨本の紹介、展示
- ・個人カードの点検



【特別活動】

- ・読書月間への取り組み
- ・しおり作り
- ・読書量・読書賞の紹介・表彰

(4) 学校司書や公立図書館との連携

- ・学校司書は配置されていないため、図書主任が図書館の仕事を総括して行う。図書主任と学級担任が連携して図書館教育を行っている。
- ・学習に必要な本は学級文庫や図書館で足りる場合も多いが、十分でない場合は積極的に公立図書館に連絡を取り、借りるようにしている。



4 成果と課題 (成果 ○ 課題 △)

①図書館の現状(整備・環境)・利用状況について

○エアコンが設置され、確立した静かな環境で集中して読書や図書を使った学習を行うことができる。夏休みにも開館し、利用を呼びかけている。

○図書委員の工夫で、利用の仕方や手順も定着し、利用児童が増えてきている。

△校舎から離れていること、図書委員による貸し出しが昼休み20分間という状況もあり、高学年になるほど借りる機会が少なくなるのが現状。

△今年度廃棄作業が進んだが、さらに古書や利用されない本の廃棄が必要。

△児童の図書館活用意識は、担任や教員の意識が大きく関わることがわかった。学習での図書館活用を今後もさらに計画的にすすめるべきである。

△市の図書館の蔵書が十分でないため、近隣の市町や県の図書館を活用せざるを得ないことが多く起こり、担当や学級担任の負担が大きい。

②図書館主任の役割・支援について

○図書の分類が明確化され、読みたい本や学習に活用したい本が探し易くなった。

○図書館の環境づくり(おすすめの本コーナーや季節に応じた本の紹介)により、児童の読書意識や関心を高め、本を手にする機会が増えた。

○図書委員の活動等工夫して運営していた。読書表彰を委員会児童に行わせるのは児童の読書への意識を高めることにもつながりよい。

○優先貸出日や学級・個人のめあてを設定したことにより、本を借りる習慣化と意識付けにつながった。

△学校図書館司書配置や図書の電子検索等、有効な支援の必要性を痛感する。

③学級担任の図書館教育・活動・支援についての意識や実践、児童の変容について

○学校図書館や公立図書館を国語学習で計画的に利用しようとする意識が高まった。

○国語学習以外にも学習に関連した図書を探し活用したり、調べ学習に生かしたりし、図書館活用や図書利用への意識が広がった。

○学級担任からの読み聞かせや本の紹介を積極的に行ったり、読書コーナーを各学級に計画的に設置する等、担任の図書活用に対する認識が高まり、児童にも影響した。

○朝読書や日常読書、週末読書の実施、学級通信での読書の呼びかけ、家庭学習強化週間での家読の実施を意識的に行い、図書利用につながった。

○本のおもしろさが分かり、意識的に意欲的に読書に取り組む児童が増えてきている。

○友だちや先生から紹介された本を手にする児童が多くなり、「感想文」や「これがわたしのおすすめ1冊」を意欲的に書く児童が増えてきた。

○家でも読むようになってきたと保護者から喜びの声が聞こえてきた。

△国語や他教科での活用の仕方を十分に理解し、読書活動を教師がさらに意図的に計画的にすすめていく必要がある。

△読書の大切さを家庭に呼びかけ、家庭との連携を強化し、どの児童も読書の習慣化を図れるとよい。

- 1 単元名 生き方発表会をしよう
伝記を読んで、自分の生き方について考えよう 「百年後のふるさとを守る」

2 単元について

(1) 本単元で行う言語活動

本単元は、「浜口儀兵衛」という人物の人生を描いた伝記「百年後のふるさとを守る」を読み、さらに他の伝記を読んで、自分を見つめ直し、自分の生き方について考えたことをまとめるという言語活動を行う。

「伝記」について、学習指導要領では「人物の生き方を描いているので、物語や詩のような行動や会話、心境などを軸に物語る文学的な描写が用いられることが多い。それと同時に、人物の生き方や考え、その偉業などを意味付けるといった点から事実の記述や説明の表現が用いられる。」とある。

本単元では、第5、6学年学習指導要領「C読むこと」の内容(1)「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなどの効果的な読み方を工夫すること」「ウ 目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読みだすること」「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを読み比べて読むこと」の指導事項を踏まえ、言語活動例(2)「ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること」の具現化を図るものである。

児童はこれまでに、解釈・読書に関わっては、人物の行動や気持ちを叙述に即して読み取ること、事実の説明と筆者の考えを読み分け、その関係を捉えることを第4学年までに積み重ねてきている。考えの形成と交流に関わることとして、気になるところや心を動かされたところなどに印を付けながら読むこと、自分の生活や読書体験との接点を考えて読むこと、根拠を示したり引用したりしながら、考えたことをまとめることを学習してきた。

そこで、「人物像を捉えることを通して、自分の考えを広げたり深めたりする」という能力の育成のために、「伝記を読んで、生き方発表会をしよう」という単元を貫く言語活動を位置づけ、伝記を読み、自分を見つめ直し自分の生き方について考えていく。

偉人の素晴らしい、その人物に学びたいと思うこと等、これからの自分の生き方について考えたことをまとめ、生き方発表会をする活動の見通しをもたせて取り組んでいくこととする。学習を進めるにあたり、教材の構成部分ごとあるいは、時間を追って、また、出来事や筆者の解説を読み分け、偉人の人物像に迫らせたい。また、友達との交流を取り入れ、自分のもの見方や考え方に深まりが表れるように言語活動を重視していきたい。

以上のような言語活動を通して、本校でめざす「自分の思いを豊かに表現できる子ども」の育成を図っていきたい。

(2) 単元観

本教材「百年後のふるさとを守る」は、実在する人物「浜口儀兵衛」を題材にした伝記である。浜口儀兵衛は、江戸時代、紀州藩広村（現在の和歌山県広川町）で暮らす人々の命を地震による津波から救い、その後村人のために堤防作りを行った人物である。その堤防は、完成から八十八年後に、実際に村を津波から守ることになる。浜口儀兵衛のその業績は、今日だからこそ改めて感じられるものである。高い決断力、行動力、統率力、強い意志をもち、人々のために私財を賭して村を救おうとした献身的な姿勢や百年後の人々のことを考えて堤防を建築したこと。また儀兵衛の行動や言葉の一つ一つからは、村を愛する思いや彼の意志の強さなどをうかがい知ることができ、児童にとって、人物像を捉えやすく学ぶものが多い人物であると思われる。伝記は、人物の行動や会話、心情が物語のように書かれている部分と、事実の説明や筆者による人物の業績に対する価値付けがわかる解説の部分とで構成されている。本教材はそれに加え、浜口儀兵衛をモデルとして書かれた『稲むらの火』の文章も引用されている。

児童にとって、初めて伝記を学習する単元である。そこで、「百年後のふるさとを守る」を読むことで、伝記の特徴をおさえた読み方を身につけさせ、読みの力を高めていける意義深い教材であると考えられる。

物語のように書かれた部分と事実の説明や筆者の考えが書かれている部分を区別しながら読み取ることや主たるエピソードを並べながら時間を追ってその人物の生涯を書いていく伝記特有の構成を学ぶことができると考える。稲むらに火をつけるという知恵と決断で村人を津波から救う姿や村の再生に生涯力を尽くした人物の言葉や行動に視点をもちつつ読み進めることで、自分の経験や考え方などの接点を見出しついでいけると思われる。人物の功績の背景にある考えやエピソード、人物の思いに寄り

添わせることで、深く理解をすることができると考える。さらに、自分の生き方と比較し共通点や相違点を明らかにしながら、共感するところや取り入れたいところなどを中心に友達と交流し合い、考えをさらに広げたり深化させたりできるよう学習を進めていきたい。

(3) 系統

4年 ごんぎつね ・物語を読んで話し合う。	→	5年 あめ玉 ・四年生までの学習を確かめる。	→
なまえつけてよ ・人物像と人物どうしの関わりに気をつけて読む。	→	大造じいさんとガン ・優れた表現によって、直接書かれていない人物の深い心情や性格について想像する。	→
百年後のふるさとを守る ・物語のように書かれている部分と、事実の説明や筆者の考えが書かれている部分を区別しながら、伝記を読む。	→	わらぐつの中の神様 ・物語の特色は「構成」「人物像」「表現」に表れることを理解し、それを捉える。	→
6年 やまなし ・伝記に書かれた人物の生き方や考え方について感想をもち、その人物の作品をより深く味わう。			

(4) 児童の実態 (男子7名 女子6名 計13名)

①実態調査 (平成27年11月5日調査)

観点	調査項目	結果
関心・意欲・態度	①読書は好きですか。(意識調査) ・理由	○とても好き 4名 ○好き 8名 ○いいえ 1名 ・おもしろいから ○いろいろなことがわかるから ・ためになるから ・心が落ちつくから
	②4～10月の読書量 (学校図書館・学級文庫利用)	○8001～10000ページ1名 ○3001～5000ページ4名 ○5001～8000ページ3名 ○0～3000ページ5名
	③どのような本を読みますか。 ・理由 (意識調査)	○物語 8名 ○伝記 6名 ○科学 2名 ○歴史 1名 (複数回答) ・結末が楽しみだから (物語)・おもしろいから (物語) ・表現の仕方を学べるから (物語) ・この先どうなるのかわくわくするから (物語) ・絵がきれいだから (物語) ・いろいろな性格の登場人物が出てくるから (伝記) ・昔の人の様子や活躍がわかるから (伝記) ・歴史がわかりやすく読めるから (伝記)
読む力	④読んだ本の内容の紹介や感想を書くことが好き。 ・理由 (意識調査)	○はい 8名 ○いいえ 5名 ・本の魅力を知ってもらいたいから ・自分のお気に入りの本を読んでほしいから ・本のいい所を伝えられるから ・むずかしいから ・書くのが苦手だから
	⑤物語を場面や人物の心情を想像しながら読む。	○できる 4名 ○だいたいできる 5名 ○あまりできない 4名
	⑥文章を読んで、あらすじがわかる。(初見の文章)	○できる 4名 ○だいたいできる 5名 ○あまりできない 4名
書く力	⑦読み取ったことをもとに、自分と比べながら考えをまとめる。	○できる 2名 ○だいたいできる 3名 ○あまりできない 8名
	⑧自分の考えを順序よくまとまりのある文章で書く。	○できる 2名 ○だいたいできる 6名 ○あまりできない 5名
伝国	⑨文形にあわせた言葉を使って正しい表記で書く。	○できる 3名 ○だいたいできる 4名 ○あまりできない 6名

②調査結果

本学級の児童は、課題に対して粘り強い態度で取り組み、国語の学習にも意欲的に参加している。

①の読書については、1名が「好き」と答えている。特に4名は大変興味を示しており、読書習慣が身についている。1名は、読む時間がないために、「きらい」と答えている。

②の読書量については、4月から学級で個人の読書量の目標を設定し、読書カードを活用しながら取り組んできている。朝自習や朝読書の時間、学習課題の終了間際など、進んで学級文庫の本を手にとって読書をする姿が多く見られる。また、昼休みの図書の貸し出し時には、委員会の担当者の声かけもあり、本を借りに行く。毎週末には、家庭読書を位置付けるなど継続して取り組んできた。9000ページを読んでいる児童が1名。3001～8000ページは8名。3000ページに満たない児童が5名いるなど個人差が大きい。

③の種類については、「物語」を読む児童が8名と多く、「話の内容の結末が楽しみでおもしろい」と物語に浸っていることがわかる。次いで「伝記」が6名である。これまで、学級や図書館の「おすすめの本」での児童同士や担任の本の紹介を継続してきたことで、物語以外の本に興味関心をもち、読んでみようとする児童が増えてきている。本単元の伝記教材に対し、抵抗が少なく導入できると思われる。

④の内容紹介や感想を書くことについては、8名の児童が「好き」と答えている。このことは、本の読解ができており、「本の魅力」や「自分のお気に入りの本を読んでもらいたい」との理由である。書くことが「きらい」な児童は、「難しいから」「書くのが苦手だから」と答えており、内容の理解や書くことの観点が分からないのが現状である。課題に対して、明確な書く観点を示して丁寧に取組ませたい。

⑤の場面や人物の心情を想像しながら読むことは、4名の児童はできる。5名はだいたいできるが具体的に自分の言葉で表現することが難しい。4名の児童は、文章中から表現している箇所を的確に見つけられない。そこで、文章中の言葉の意味を正しく理解させたり、読み取るための視点やキーワードを明確にして丁寧に読ませたい。また、語彙も意識して増やしながらい方を継続していく。

⑥については、4名の児童ができています。5名はだいたいできる。あまりできない4名は、普段の音読からも読むことが苦手である。このことから、文章中の言葉を意味あるままとりとしてまた、文脈を理解できていないものと思われる。さらに、読める児童の2倍の時間を要する現状である。

⑦の読み取ったことをもとに、自分と比べながら考えをまとめるでは、2名はできている。しかし、8名については、自分と比較をした読み取りができていない。そこで、自分と照らし合わせた読み取り方を観点を提示しながら指導していきたい。

⑧の書くことは、2名は考えを順序よくまとまりのある文章で書くことができる。6名は、主述を問わせて考えたことを文に書ける。あまりできない5名は、助詞の使い方や漢字や言葉の表記の間違いが見られた短文を書いている。そこで、国語の学習以外でもミニ作文やノート指導等、機会を捉えてまとまりのある文章や正しい文字表記、文章を書く取り組みを継続し行う。また、書く速さもできる児童に比べ2倍程時間を要するため、朝自習や授業開始時に書くトレーニングを適宜取り入れて引き上げておきたい。

⑨については、6名の児童は、言葉の使い方や助詞、表記の間違いが見られる文を書いている。そこで、日常から書く活動を多く取り入れ、正しい文章表記指導を行う。

(5) 指導観

本単元は、目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身につけさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てることを主なねらいとしている。

児童は、これまでに人物の行動や気持ちを叙述に即して丁寧に読み取る学習をしてきている。「大造いさんとガン」では、主人公の行動をもとに心情を捉えることだけでなく、情景描写に着目しながら主人公の心情の変化を捉えることをしてきた。しかし、十分に読み取ることや自分の言葉に置き換えて考えや思いを表現することが苦手な児童が多い。児童は、「伝記」という学習をしたことがなく、自分自身と他人の生き方を比べ、自分の生き方について深く考えることは初めてである。

そこで、児童の実態を考慮し、本単元を通して身につけさせたい力を確かなものにしていくために以下のように単元学習を進めていく。

意欲的に学習を進めるための手立てとしては、「生き方発表会をしよう」とする単元の最終目標を示し、目的意識・相手意識をもたせることで意欲的な学習の継続を図ることができる。と考える。

読む力を高めるための手立てとしては、人物の生い立ちや主な出来事、功績等を叙述をもとに着目させ、捉えさせていきたい。伝記の特徴である人物の功績やその意義を読み取らせる手がかかりとして、人物のしたことや考え、筆者が人物の功績に見いだしている意味、言葉の文章に視点を置いたり、音読したりしながら具体的な人物像として捉えさせていきたい。そして、今の自分自身のことと関連

させながら、自分の生き方に取り入れたいことは何か、これからどんな生き方をしていきたいか、どう考えが変わったか等の考えをもたせていく。また、自分の読みを自分の言葉で表現することに個人差が大きいため、「言葉の宝箱」例や「感想の言葉」例を活用して、自分の言葉に置き換えて考えを表現させるなど確かなものにしていく。そして、友達との交流活動を取り入れることで、深まりと広がりのある読みができ豊かに表現できるようにしていきたい。また、この学習の期に、たくさんの方の生き方にふれることができるように関連図書のコーナー等、読書環境を整えて展開していきたい。

3 単元の目標

○「伝記」という文章や、そこに描かれた人物の人生に興味をもち、読むことを楽しもうとしている。
(関心・意欲・態度)

○目的に応じて、本や文章を比べたり関連させたりして読み、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
(読むこと)

○文章にはいろいろな構成があることを理解することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の指導計画と評価計画(11時間抜い 本時 9/11)

【関】…関心・意欲・態度 【読】…読むこと

【言】…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

次	曜	主な学習活動と内容	評価規準(評価方法)
一次	1	○単元の学習課題「伝記を読んで自分の生き方について考える」をつかみ、見直しをもつ。 ・伝記を読んだ経験や感想を発表し合う。 ・伝記を読んで「生き方発表会をする」というめあてをもつ。 ・「百年後のふるさとを守る」の範読を聞き、感想をもつ。 ・伝記の特色を知り、伝記を読むことの意義や価値について考える。 ・単元計画を立て、学習の進め方を確認する。	【関】・伝記を読んだ経験や感想を導んで発表したり、学習計画の話し合いに参加しようとしたりしている。 (発言・話し合い)
	1	○「百年後のふるさとを守る」大体の話の内容と文章構成(出来事・事実の説明・筆者の考え)を捉え、伝記の特色についてまとめる。 ・「稲むらの火」の五兵衛と儀兵衛を結びつけて読み取る。 ・文章構成(出来事・事実の説明・筆者の考え)を捉える。 ・新出漢字や語句の意味を確認する。	【伝】・出来事・事実の説明・筆者の考えで構成されていることを理解している。 (発言・ワークシート) 【読】・話の大体的内容を読み取っている。(発言・ワークシート)
二次	1	○「百年後のふるさとを守る」儀兵衛の行動と思いを読み取り、自分の生き方と比べる。 ・地震の時の儀兵衛の行動を読み取る。 ・大地震後、村人たちと大堤防を完成させる儀兵衛の思いと行動を読み取る。	【読】・人物の行動や考えについての描写を捉え、人物の生き方を読み取っている。 (発言・ワークシート)
	1	○「百年後のふるさとを守る」筆者が考える儀兵衛の功績とその意味を考え、交流し合う。 ・百年後にも役立つ堤防を作ったことや村人の生活援助を行ったこと等、意義や背景にある考えと思いを自分と比べ読み取る。	【読】・筆者の考えを読み取り、人物の功績と意義について書いている。 (ワークシート)
	1	○「百年後のふるさとを守る」儀兵衛の生き方と自分を比べながら、考えたことをまとめ交流し合う。 ・したことや言葉の中から人物像を考える。 ・儀兵衛の生き方と自分を照らし合わせて考えたことを深める。	【読】・登場人物の生き方と自分を照らし合わせて、考えを広げたり深めたりしている。 (話し合い・ワークシート)
	1	○自分が選んだ伝記の大体的話の内容と構成を捉える。 ・文章構成(出来事・事実の説明・筆者の考え)	【伝】・出来事・事実の説明・筆者の考えで構成されていることを理解している。

三次		を確認する。 ・登場人物の生い立ちを捉える。 ・語句の意味を確認する。	(発言・ワークシート) 【読】・話の大体の内容を読み取っている。(発言・ワークシート)
	1	○自分が選んだ伝記の人物の主な行動と思いを読み取り、自分の生き方と比べ、考えたことをまとめる。 ・人物の主な行動・業績を読み取りまとめる。 ・人物と自分の考え方の共通点や相違点を確認しながらまとめる。	【読】・人物の行動や考えについての描写を捉え、人物の生き方を読み取っている。(発言・ワークシート)
	1	○自分が選んだ伝記の人物の生き方と自分を比べながら考えたことを下書きにまとめる。 ・したことや言葉の中から人物像を考える。 ・人物の生き方と自分を比較させて考えをまとめる。	【読】・登場人物の生き方と自分を照らし合わせて、考えを書いている。(ワークシート)
	1 本時	○自分が選んだ伝記の人物の生き方と自分を比べながら、考えたことを交流し深める。 ・下書きを交流し合い、加筆・修正する。	【読】・登場人物の生き方と自分を照らし合わせて、考えを広げたり深めたりしている。(話し合い・ワークシート)
	1	○生き方について考えた下書きを清書する。 ・推敲・清書し、見方や考え方を広げる。	【読】・登場人物の生き方と自分を照らし合わせて、考えを広げたり深めたりしている。(ワークシート)
四次	1	○生き方発表会を行い、学習を振り返る。 ・自分の書きまとめた生き方を発表し合う。 ・学習を通して、学習前と後で自分がどう変わったか比べながら振り返る。	【読】・生き方について発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(発表)

5 仮説との関連

【仮説】
単元を通した言語活動の充実を図ることで、自分の思いを豊かに表現できる力を育てることができるであろう。

- 本単元を通し、
○人物像を捉えて読み、自分の考えを広げたり深めたりする力
○伝記の特徴を捉えて読む力

を身につけさせることをめあてとしている。本校の研究主題「自分の思いを豊かに表現できる力」を育成するために生き方発表会を行うことを単元を貫く言語活動と位置づけ、それを確かな力としていくために以下のような手立てをとっていききたい。

- (1) 自分の思いを豊かに表現するための主体的な読みの力を身につけるために
○「自分の生き方を発表すること」を単元を貫く言語活動と位置づけ、見通しを持たせる。
○生き方発表会のモデルを担当が紹介することにより、ゴールを見せる。
○読みのめあて、目的意識・相手意識、学習内容を明確にできるような言語活動を工夫する。
「魅力的な偉人から学んだ自分の生き方を発表しよう」という課題を設定し、それを明確にするための単元計画を話し合う。
○関連図書について紹介したり、読書環境を整えたりする。
- (2) 自分の思いを豊かに表現するための読む力や表現する力を身につけるために
○人物のしたことから、心情を読み取る。
○人物の言葉から心情を読み取る。
○人物の功績やその背景から人物像を捉える。
○読み取ったことや考えを交流し、人物に対する考えを深める。
○意図的にグループ編成を行う。
○読み取ったことや自分が思ったことを書くためのワークシートを活用する。

- 人物像に迫る手立てや交流時の考えの広がり・深まりの手立てとして付箋紙を活用する。
- 「言葉の宝箱」例を表現に活用する。
- 「感想の言葉」例を表現に活用する。

6 本時の指導 (9/11)

- (1) 目標
・登場人物の生き方と自分を照らし合わせて、考えを広げたり深めたりすることができる。(読むこと)
- (2) 工夫したこと
・ワークシートを工夫し、自分の考えを深める手立てとする。
・付箋紙を活用することで、互いの考えや表現の仕方を読み取りやすくする。
- (3) 展開 (9/11)

学習内容と活動	組織	指導(・)と評価(※)仮説との関連(◎)	教具・資料
1 本時の学習課題をつかむ。 ○学習課題を確認する。 生き方発表会をしよう。 ～下書きを交流し合い、 自分の考えを深めよう～ ○本時の学習の進め方を確認する。 ・交流の仕方 ・付箋紙の使い方 ・メモ欄の活用	3分 一斉	・前時までの学習を振り返らせ、本時の学習を確認する。 ・書いたものを3人グループで交流し、様々な視点から捉え、深めさせる。 ・着目する観点を示し、交流の仕方の確認をする。	単元計画
2 登場人物の生き方と自分を照らし合わせて書いた下書きを交流し合う。 【交流の観点】 ・読み取ったことと自分の考えを区別してまとめているか。 ・自分の考えが明確に表現されているか。 ・自分の考えと比べてどうか。 【内容の観点】 ・1段落 ◇人物紹介 ・人物がしたこと ・考え方 ・2段落 ◇自分自身のこと ・普段考えていること ・実生活での体験 ・読書体験 ・もっている知識 ・3段落 ◇伝記を読んで考えたこと ・新しく知ったこと ・こうなりたい ・考えが変わった ・初めて考えてみた ・このようにしたい ・考えが深まった 【表記の観点：文末表現】 ◇伝記から読み取ったことを書く時 ・～と書かれていました。	2.5分 グループ	◎自分の生き方についての考えを書いたり深めたりするために、下書き用のワークシートを活用し、交流させる。 ・伝記から「読み取ったこと」と自分が「考えたこと」がはっきりするように、文末表現の使い方にも着目させる。 ・自分が普段考えていること、実生活での体験、知識等を関連させ、どんな自分になりたいか考えさせながら交流させる。 ◎交流して共感できる箇所に橙色の付箋紙、アドバイスする箇所に黄色の付箋紙を貼り付け、それぞれ記入させる。 ・どのように自分の生活に生かそうとするのかの視点をもって互いに読み合う ・どういう考えや思いから生き方を書いているか観点表を確認しながら交流させる。 ・見習いたいと思うところはどこか、友達の書き方や考え方を自分の発表にかせるところがあればメモするよう助言する。 ・考えをグループ内で発表し合い、自分の考えに取り入れられそうところは何かという観点で交流させる。 ・アドバイスの従って、追記・修正を書くように助言する。 ・②④⑩児には、自分の考えを書くための主たる言葉のヒントが書かれているワークシートを活用し、まとめるよう	教師の作例 下書き用のワークシート 表記確認表 内容の観点表 付箋紙 (橙色) (黄色)

<ul style="list-style-type: none"> ・～でした。(～です) ・～だということです。 ◇考えたことを書く時 ・～と考えました。 ・～といえるのではないでしょう か。 ・～参考にしたいと思いました。 		<p>にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き進めることができない児童には、側に寄って今の自分自身のことや考えていること等、話をして書く支援をする。 ・友達の書き方を交流して、自分もこうありたいと思ったことなど友達の書き方のよさを認め合わせる。 	
<p>3 交流したことをもとに、下書き用のワークシートを修正する。</p> <p>○話し合ったことや新たに自分に取り入れられそうなことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって努力したい。 ・これから○○のように生きていきたい。 ・□□という言葉大切にしていきたい。 ・友達のアドバイスを聞いて、これからの生き方を考え、書き出すことができた。 	<p>15分 グループ 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修正に戸惑う児童には、人物の業績や考え方をまとめたワークシートや伝記本を読み返して付加させるように助言する。 ・友達の発表や意見を参考にして、自分の考えに加筆・修正し、考えを広げ、深めるようにする。 ・参考となるような下書き用のワークシートを発表し、表し方を全体に広げる。 <p>※登場人物の生き方と自分を照らし合わせるか。(交流・ワークシート)</p>	<p>並行読書本</p>
<p>4 次時の学習を確認する。</p> <p>○次時は、清書を書くことを確認する。</p>	<p>2分 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を振り返り、次時への活動意欲をもたせる。 	